

秋建時報

秋建時報

平成20年12月1日(第1176号)



発行/(社)秋田県建設業協会
秋田市山王四丁目3番10号
TEL 018(823)5495
FAX 018(865)2306

<http://www.a-kenkyo.or.jp>



素朴で自然な湯には、石油ランプの黄金色の光がよく似合う。降りしきる雪もまた、ランプの光りに溶け込んで幻想的だ。

「ランプ (鶴の湯にて)」 絵・文：白澤 恵舟

信頼回復のとき(下)

会長 菅原 三朗

2001年以降の小泉構造改革により、公共事業は益々削減が続き加えて入札契約制度の変更等により受注競争が一層激しくなる中で、今度は福島・和歌山・宮崎県などで知事を巻き込んだ官製談合事件が発覚し、又々国民の大きな^{ひんしゆく}響感を買うと同時に、地方自治体における公共工事の調達^{てうたう}のあり方が大きく問われることとなった。

この時こそ地方自治体の公共工事の調達はどうあるべきかを徹底的に議論をし、正しい方向を見出す絶好の機会であったにもかかわらず、全国知事会はそれをやらずに、ガイドラインとして一千万円以上の工事はすべて一般競争入札にすべきであると。これにより供給過剰のアンバランスの中でダンピング競争が全国に蔓延し、公共工事に依存度の

高い地方業界の疲弊はその極みに達し崩壊の危機に直面している。このことは独り業界のみならず地域経済の活力の喪失や雇用の面にも大きく影を落とし、安全安心な地域づくりの停滞など、格差拡大の大きな要因になっていることも否めない事実である。

このような事態を打開し公共工事の品質を確保するとともに、正しい調達のあり方も確立していかなければならないと、有志の国会議員による「公共工事の品質確保の促進に関する法律(品確法)」が議員立法により制定され、ようやく価格だけでなく品質(技術)との両面から評価をすべきであるという調達制度へと改正されつつある。

「品確法」制定後四年目の見直しの時期を迎え、国土交通省は本年度から入札の調査基準価格を予定価格の82%程度まで引き上げたが、これについてはダンピング防止では業界と考えを同じくしているが、あくまで品質の確保が主眼であるとしてい

る。しかし本年度の全国各地ブロック会議でも、施工業者の適正な利益確保のためにもこの調査基準価格は予定価格の90%まで引き上げるべきであると強く要望している。又秋田県建設業協会が第三者機関に委託をした本年度のコスト調査においても、公共工事の損益分岐点は予定価格の90%付近となっている。国土交通省は是非とも今一段の引き上げにより地方の公共工事発注機関にその範を示すべきである。

この「品確法」の推進によりようやく公共工事の正しい調達のあり方が、よみがえってきた。遅きに失した感はあるものの今こそ発注者・受注者(施工者)ともその原点に立ち返り、公共事業の品質の確保の促進とともに施行者の適正な利益確保もはかられる制度の確立とともに、両者の新しい時代のパートナーシップの再構築による公共事業本来の正しい執行を推進することにより、今こそエンドユーザーの信頼を回復すべきときである。

将来に夢と誇り、希望の持てる産業を目指し努力

秋田県建設雇用・構造改善推進大会

11月14日、秋田労働局、秋田県、雇用・能力開発機構秋田センター、秋田県建設業協会の主催による平成20年度建設雇用・構造改善推進大会が秋田ビューホテルで開催され、関係者約150名が参加した。

はじめ、本会の菅原三朗会長が挨拶。「これからも、優秀な技術者、技能者の評価、処遇の改善などの適切な労働環境づくり、建設現場での安全対策などに積極的に取り組むことが必要。常に県民に信頼される仕事を心がけ、建設業に働く一人一人が将来に夢と誇り、希望の持てる産業を目指し、なお一層努力していく」と述べた。

大会では表彰式が行われ、雇用改善に尽力した優良事業所や、技能・技術に優れた現場従事者に表彰状、記念品の贈呈が行われた。

表彰終了後、建設産業の人材対策において国土交通大臣表彰を受賞した(株)柳沢建設から「雇用の安定と地域貢献

は企業の責務」と題した人材確保・育成事例発表が行われた。

また、基調講演はクリエイティブ・マネジメント研究所の宮崎健治代表を講師に迎え「金融機関と上手に交渉する方法」と題し、金融機関の視点から見た企業再建や資金調達について講演を行った。

受賞者は次の通り。

○厚生労働大臣表彰

(株)柳田建設

○国土交通大臣表彰

菅 良弘 (株)菅組

吉田博行 (株)吉田建設

○国土交通大臣顕彰

【優秀施工者】

安藤玲一 加藤建設(株)

伊藤 均 秋田振興建設(株)

片岡勇悦 佐藤建設(株)

金子 正 (株)宮原組

高橋儀雄 高吉建設(株)

田村清行 千代田興業(株)

長谷部正春 (株)大沼組

【建設産業の人材対策】

(株)柳沢建設

○秋田県知事表彰

【建設雇用改善優良事業所】

(株)菅組

【優秀建設現場従事者】

高橋正純 仲周建設(株)

川口 守 (株)沢木組

柏木茂成 (株)寒風

田村伸男 田中建設(株)

斉藤金良 中田建設(株)

奈良正義 (株)大成工務店

進藤彰人 高禮建設(株)

若松芳美 (有)藤電気工業

○社団法人 秋田県建設業協会会長表彰

(有)阿部工務店

秋田機械建設(株)

(有)佐藤建設

(株)加藤建設

(株)佐藤組

(株)宮原組

(株)東翔

(株)皆瀬土木

全国建設青年会議

地域に必要とされる建設業とは

第13回全国大会

全国建設青年会議(幹事：四国建設青年会議)は11月28日、東京都・経団連会館にて第13回全国大会を開催し、全国から300名を超える関係者が出席した。

大会冒頭、四国建設青年会議の二神一誠会長は自社経営や地方建設業が疲弊している状況に触れ、挨拶の中で「5年後に自信を持って会社を運営していると思っている人は手を挙げて欲しい」と出席者に問いかけたところ、若干数名が挙手するにとどまった。そして、「非常に厳しいが、どうかしなければならぬ。知恵を出し合ってこの苦境を乗り越えるためのヒントを掴みたい」と述べ、業界の本当の声を聞いてもらいたいと訴えた。

続き、来賓として挨拶・基調講演を行った国土交通省の谷口技監は「不屈の精神であきらめず取り組んで欲しい」、「変化に対応・進化して生き残っていただきたい」と述べ、参加者を激励した。

続いて、高知工科大学の草柳俊二教授をコーディネーターに各ブロック代表者とマスコミ関係者のパネルディスカッションが行われ、建設業が地域に果たす役割や、地域建設業の有意性を活かし地域ニーズを適える方向性をテーマとして、地域の災害復旧活動や、実施中の地域貢献策について各ブロック代表者が事例を紹介。マスコミ関係者と意見を交わした

次回、第14回大会は東北ブロックが



幹事となり開催が予定されている。



秋田県公共工物品質確保・安全施工協議会

設立総会を開催

地域の安全安心の確保へ

秋田県公共工物品質確保・安全施工協議会は11月28日、秋田ビューホテルにおいて設立総会を開催し、関係者ら約70名が出席した。

同協議会は、地域の安全安心の確保にも活動範囲を広げることを目的に、設立に賛同する県内企業92社で立ち上げた。

はじめに菅原発起人代表が「時代の趨勢により、今我々に求められているのは建設技術の研鑽にとどまらず、無事故・無災害による安全施工や地域住民の安全安心を守ることである。今後は、高度な技術を有し、地域から信頼される技術者集団として自助努力を重ね、建設産業が健全に発展することを願う」と挨拶。

その後、議事では、協議会設立、会則(案)、20年度事業計画予算(案)をそれぞれ満場一致で承認、決定し、役員選任では16名の幹事を選任するとともに、菅原三朗設立発起人代表を会長に選任した。

役員は次のとおり



会長	菅原三朗
副会長	北林一成
〃	村岡淑郎
〃	伊藤俊悦
幹事	村木通良
〃	多田祥茂
〃	大森三四郎
〃	能登信一
〃	加藤憲成
〃	大沼武且
〃	荒川暉也
〃	吉田博行
〃	菅良弘
〃	柴田均
会計監査	鈴木泚士
〃	仲野谷藤吾

理事長表彰

普及・履行確保等の功績を称えて

勤労者退職金共済機構では、10月を「加入促進強化月間」と定めており、本制度のより一層の充実を図ることとしております。

その加入促進強化月間の一環として、本制度の趣旨である普及徹底、加入促進及び履行

確保に積極的に貢献している建設業退職金共済制度普及協力事業所として、三共建設(株)、伊藤建設工業(株)が、支部職員から佐々木主任が理事長表彰を受賞。

11月14日開催された平成20年度秋田県建設雇用・構造改善推進大会において、菅原三朗秋田県支部長より表彰状及び記念品を伝達されました。



◎三共建設株式会社

代表取締役 安倍 秋一 にかほ市

◎伊藤建設工業株式会社

代表取締役 齊藤 實 横手市

◎社団法人 秋田県建設業協会

佐々木 千穂 秋田市

(財)建設業福祉共済団から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

情報コラム Vol.25

改正建設業法施行に伴う民間連合協定 工事請負契約約款の一部改定について

11月28日、改正建設業法が施行されたことに伴い、現行の民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款（平成19年5月改正様式・以下、契約約款）利用に当たって、以下の対応が必要になりました。

改正建設業法では「**共同住宅の新築工事における一括下請負が全面的に禁止**」されていることから、契約約款第5条の条項に不具合が生じるため、「共同住宅の新築工事※」に関する工事請負契約を締結する場合は、「工事請負契約書 8.その他」欄に特約事項として、次の条項を付する必要があります。
※建設業法第22条第3項及び同法施行令第6条の3に規定される工事をいう。

契約約款第5条の定めにかかわらず、乙は、工事の全部もしくはその主たる部分または他の部分から独立して機能を発揮する工作物の工事を一括して、第三者に請け負わせることもしくは委任することはできない。

共同住宅の新築工事以外の工事については、現行の約款のまま利用可能です。

なお、第5条を改正した契約約款は12月上旬発行の予定です。

近代化 遺産 の 土木 建築

No.75

坂本東嶽邸

仙北郡美郷町千屋字中小森91



坂本家は岩手県沢内村から真昼峠を越え大坂村（旧千畑町）を経て千屋字中小森の勝手神社の麓に居を構え、その後、大地主として発展した家柄である。沢内村坂本郷から移住したことから坂本姓を名乗り、藤兵衛が初代となつて現在地に居を構えた。

六代目の藤兵衛は増田（横手市）の沓沢甚兵衛家から婿入り酒造業を始めた人である。その子、理一郎（一八六一〜一九一七）はのちに東嶽を号とする文化人、政治家で坂本家は広く名を知られる名家となり大いに栄えた。

明治二九年（一八九六）、真昼山麓を突如襲つた大地震（陸羽・六郷地震）で多くの家屋が倒壊、坂本家もその被害に遭つた。平成四年に美郷町に寄贈された現坂本邸は指定文化財に指定されたが、今に残る邸宅は地震の翌三〇年から建築されたものである。町に寄贈されたのは邸宅だけでなく、田畑土地も含み、その面積は一、五二五㎡に及ぶ。

屋敷の周りを二メートルほどの石垣が囲み、今では四分の一ほどになった住家が古いたたずまいを見せている。およそ

農家建築とは思えない屋敷構えで、丸をもつた唐破風の玄関屋根が格式の高さを感じさせ、母屋内部の居間や台所は近年まで生活していた跡がうかがい知れる。母屋につづいて茶室や内蔵、奥座敷（二階建て）、庭園などの豪華さもある庭園は京都の庭師が築庭したものだといひ、瀟洒な茶室と調和が保たれている。土蔵を含む邸内に数多くの什器や備品が展示されている。門を入つてすぐのところには取蔵庫、記念室があり、そこには東嶽の書や書簡などが展示され、慶応義塾で共学んだ政友、犬養毅（木堂）とも親交が深かつた人柄がよくわかる。

また東嶽は小杜山房とも号した文化人でとくに漢詩をよくしたものだといふ。東嶽は二八歳で秋田県会議員になり、その後、衆議院議員、貴族院議員も歴任。その人の村づくりに構想は現在にも通用するもので、千屋地区の中心部に今も残る六条の松や杉の並木道がそれを物語っている。近くの一丈木公園には高村光雲作の東嶽銅像が建立されている。

（取材・構成／藤原優太郎）

置賜の旅紀行

藤原優太郎

山々が雪化粧をほどこす初冬、米沢市周辺を歩いて来た。部分的ではあるが、秋田と山形両県に高速自動車道が延びたことで米沢までもだいたい時間短縮ができるようになった。国道13号、上市市から南陽市赤湯へぶどう畑が山の斜面に広がる中山峠を越すと、そこはもう山形県ではないような錯覚に陥る。江戸時代の藩領が異なるせいもあるだろう。しかしそこは山形でもなければ福島でもないような一種独特の風土性が感じられる。地形地理的な側面からいえば、蔵王連峰を離れて山脈が吾妻連峰にシフトし、赤湯、高畠、米沢はさしずめ置賜県といえびつたりするような広々とした盆地である。

旅の目的は板谷峠の峠駅まで行って「峠の力餅」を取材するものであった。峠駅は以前、鉄道がスイッチバックを繰り返していた奥羽本線の難所で、昔も今も「峠の力餅」が名物である。

簡単な取材を終え、旧羽州米沢街道に沿って米沢の市街地に下った時は日没が迫っていた。米沢はいく度か訪れたことがある。20数年前、市内の史跡探訪したことを思い出し、翌日、記憶の糸をたぐりながら数か所をまわってみた。

春日山林泉寺という米沢藩ゆかりの古刹がある。藩の名家老として名高い直江兼続の墓所に行ってみようと思った。この武将は来年のNHK大河ドラマ「天地人」の主人公となる。そのせいか、市内のどこへ行っても観光客が多い。ドラマの舞台となる城下町探訪を先取りしようとしているのかも知れないが、自分の目論見はそれとは関係ない。

以前訪れた林泉寺は人影もなく静かなたたずまいであったと思うが、今はボランティアガイドの方たちだろうが、多くの参拝客の案内をしていた。寺院の内部はそれほど関心を引くものはなかった。

山門と本堂の中間奥手にある墓所に行ってみた。前と違って今は分かりやすい案内板があり、上杉家墓所、武田家墓所、直江山城守兼続夫妻

の墓所などがそれぞれ別々に立ち並んでいる。上杉家墓所には米沢藩初代景勝の生母、仙洞院はじめ、景勝に輿入れした武田信玄の4女、甲州夫人菊姫の墓などがあつた。

少し奥まったところに直江兼続夫妻の墓がある。上杉家に仕えた武将の直江兼続については今ここで説明をするいとまはないが、ここでは同じ林泉寺墓所に眠る水原（杉原）常陸介親憲という上杉家家臣の武者について少し語りたい。

関ヶ原合戦後、徳川幕府から大阪冬の陣に駆り出された諸大名の中に、上杉景勝もいたし、秋田藩の佐竹義宣もいた。渡部景一氏の『佐竹氏物語』によれば、この時、佐竹勢は家康の命を受けて玉造口に布陣、その後、景勝軍と協力して今福の敵（豊臣方）の排除を命じられた。そこは大阪城周辺の重要拠点で、敵陣には後藤又兵衛や木村重成らの武将がいた。この戦では佐竹勢が一時苦戦を強いられ、重臣渋江政光らが壮絶な戦死をしている。

結果的に今福で勝利をおさめた佐竹、上杉連合軍は徳川将軍から特別に感謝状をいただいている。佐竹方の資料では、この今福合戦の勝利を自軍の手柄としているが、一方の上杉方から見るとまた少し違っている。佐竹義宣隊が大阪方に攻められ潰乱しようとした時、家康は景勝のもとに「佐竹を救援せよ」と使番を走らせたという。そして送られた上杉方鉄砲隊の杉原常陸介親憲らが大阪隊を城に追い込んだ。杉原常陸は大名ではなく陪臣の身分ながら家康から異例の謝状を受けたということである。

窮地に陥った秋田勢を助けた武将がここに眠っていると思うと感慨もまたひとしおのものがある。米沢というところは謙信以来の質実な気風がただよっているとを感じる。それはそのあとに行った上杉歴代藩主の御廟所でも感じた静かで強い思いである。

